

## 構造改革の影響、「民の痛みだけ大」との回答が77%

“改革期待派”は5割を切る（前回調査は71.8%）

- (社)東京都信用金庫協会調べ -

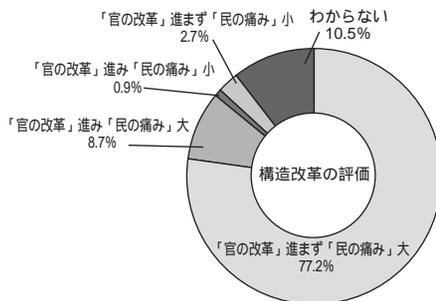
都内中小企業の77%が、「官の改革は進まず、民の痛みだけ大きい」と回答。このような結果が、社団法人東京都信用金庫協会がこのほど発表した「構造改革の影響について」の特別調査から明らかになった。それによると、構造改革の「官の改革」と「民の痛み」について、「官の改革は進まず、民の痛みだけ大きい」と回答した事業所が77.2%を占め、最も多かった。次いで「官の改革は進んでいるが、民の痛みも大きい」が8.7%となっている。前回調査（平成13年9月）から1年6ヶ月経過後の構造改革への期待度をみると、「期待している」、「やや期待している」を合わせて49.4%となり、5割を切った。“改革期待派”は前回調査の71.8%から大幅に減少した。調査は、信用金庫景況調査先の都内中小企業を対象に平成15年3月中旬に実施、11,478事業所の有効回答を集計したもの。その概要は次のとおり。

### 1. 構造改革の「官の改革」と「民の痛み」

5つの選択肢のうち、「官の改革は進まず、民の痛みだけ大きい」との回答が77.2%であった。

次いで、「官の改革は進んでいるが、民の痛みも大きい」が8.7%となり、両方を合わせると「民の痛みが大きい」との回答は85.9%に及び、反対に「民の痛みは小さい」は3.6%であった。

「官の改革が進んでいない」は全体でも約8割（79.9%）で、「官の改革進んでいる」は約1割（9.6%）であった。



## 2. 構造改革・デフレ対策で上手く進んだもの（2つ以内複数回答）

構造改革・デフレ対策で上手く進んだものを選択いただいた。尚、平成13年9月に「構造改革」に対する期待についての調査結果との比較と併せて記す。

1位「どれも上手くいっていない」（61.9%、前回選択肢なし）が多く、2位は「わからない」（12.6%、前回選択肢なし）が続いた。具体的なメニューの中では、3位「不良債権の抜本的解決」（8.7%、前回46.1%）、4位「公共事業見直し等による財政改革」（7.3%、前回28.7%）、5位「民営化、電気通信・医療・労働・環境分野等の規制改革」（7.2%、前回22.1%）となり、順位は前回調査と同順位であるが、それぞれ大幅に数値を下げた。

## 3. 構造改革による企業への影響と対応策

### ①企業経営への影響

2位「業況が悪化した」（23%）と1位「やや悪化した」（29%）を合わせると5割以上が「悪化した」と答え、反対に5位「業況が改善した」（0.6%）は

1%にも満たず極めて少なかった。「影響なく変わらない」は30%。

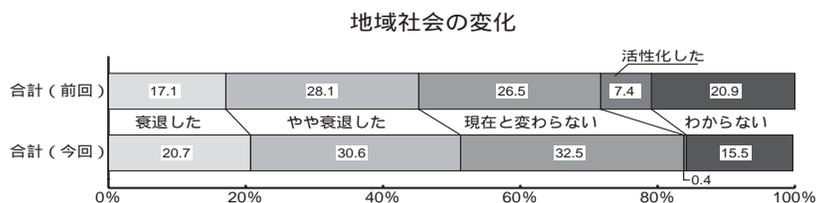
### ②構造改革への対応策

「特に対応策を講じない」（44%）が最も多いが、講じる必要がないのか、講じることが出来ないのかは不明である。次いで、2位「借入金返済など資産・負債の圧縮」（20%）、3位「仕入原価など変動経費の削減」（17%）、4位「従業員数削減など固定経費の削減」（13%）となっている。5位「新商品開発など売アップ策」（6%）は少なかった。

## 4. 構造改革による地域社会の栄衰と具体的影響

### ①地域社会の栄衰

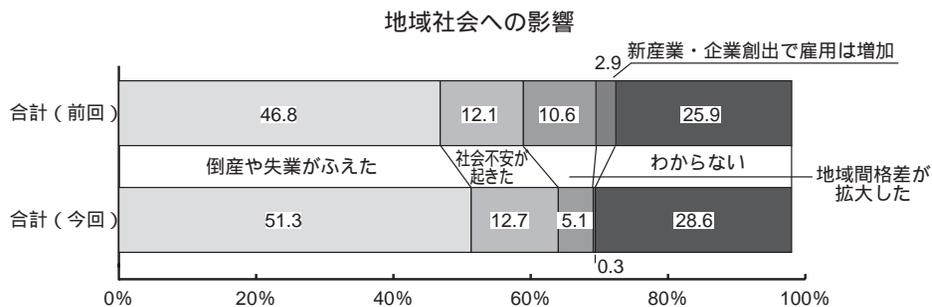
3位「衰退した」（20.7%、前回17.1%）と2位「やや衰退した」（30.6%、前回28.1%）を合わせると5割が「衰退した」と応えており、ほぼ前回調査の予想通りとなっている。反対に「活性化した」（0.4%、前回7.4%）は皆無に等しかった。4位「分からない」（15.5%、前回20.9%）は若干減少した。「現在と変わらない」が前回より増え、最も多かった。



②地域社会への具体的影響

1位「倒産・廃業や失業が増えた」(51.3%、前回46.8%)、3位「社会不安が起きた」(12.7%、前回12.1%)とな

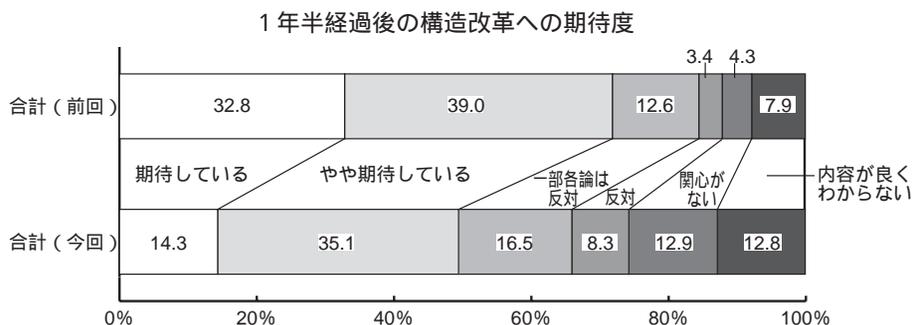
っており、4位「地域間格差が拡大した」(5.1%、前回10.6%)と5位「新産業・起業創出で雇用が増加」(0.3%、前回2.9%)は少なかった。



5. 1年6ヶ月経過後の構造改革への期待度

「期待している」(14.3%、前回32.8%)は、前回調査より大きく減少し3位となった。「やや期待している」(35.1%、前回39.0%)は今回も1位であったが、若干減少した。両方を合わせた「期待派」は前回71.8%あったが、今回は49.4%と

5割を下回った。一方、2位「一部各論は反対である」(16.5%、前回12.6%)、6位「反対である」(8.3%、前回3.4%)はそれぞれ増加し、その他として4位「関心がない」(12.9%、前回4.3%)と5位「内容がわからない」(12.8%、前回7.9%)も増加している。



\* パソコン上のグラフ処理において、一部数値が自動調整される箇所がある。